

1. 件名: 島根原子力発電所原子炉施設保安規定変更認可申請(2号炉の高経年化技術評価等)に関する
事業者ヒアリング

2. 日時: 令和5年10月19日(木) 13時30分~14時40分

3. 場所: 原子力規制庁 9階 B 会議室(※一部TV会議システムによる出席)

4. 出席者:

原子力規制庁

原子力規制部審査グループ

実用炉審査部門

岡本上席安全審査官、雨夜上席安全審査官、日高安全審査専門職、

市川安全審査専門職、今田審査チーム員、鈴木技術参与

長官官房技術基盤グループ

システム安全研究部門

小嶋統括技術研究調査官、田口主任技術研究調査官、水田技術研究調査官、

河野技術参与※

中国電力株式会社

島根原子力発電所 保修部(保修技術) 課長 他16名※

5. 自動文字起こし結果

別紙のとおり

※※音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

6. その他

提出資料:

- ・島根原子力発電所2号炉 高経年化技術評価(30年目)の補正に係る主な説明事項
- ・島根原子力発電所2号炉 高経年化技術評価(共通事項) 補足説明資料
- ・島根原子力発電所2号炉 高経年化技術評価(低サイクル疲労) 補足説明資料
- ・島根原子力発電所2号炉 高経年化技術評価(中性子照射脆化) 補足説明資料
- ・島根原子力発電所2号炉 高経年化技術評価(照射誘起型応力腐食割れ) 補足説明資料
- ・島根原子力発電所2号炉 高経年化技術評価(2相ステンレス鋼の熱時効) 補足説明資料
- ・島根原子力発電所2号炉 高経年化技術評価(コンクリートおよび鉄骨構造物) 補足説明資料
- ・島根原子力発電所2号炉 高経年化技術評価(耐震安全性評価) 補足説明資料
- ・島根原子力発電所2号炉 高経年化技術評価(耐津波安全性評価) 補足説明資料
- ・島根原子力発電所2号炉 審査会合における指摘事項に対する回答
- ・島根原子力発電所2号炉 高経年化技術評価ヒアリングコメントに対する回答一覧表
- ・島根原子力発電所2号炉 高経年化技術評価質問事項に対する回答一覧表【低サイクル疲労】
- ・島根原子力発電所2号炉 高経年化技術評価質問事項に対する回答一覧表【熱時効】
- ・島根原子力発電所2号炉 高経年化技術評価質問事項に対する回答一覧表【耐震】

以上

時間	自動文字起こし結果
0:00:01	原子力規制庁の日高です。島根原子力発電所 2 号炉の高経年化技術評価のヒアリングを開始いたします。それでは中国電力の方から、資料の説明をお願いします。
0:00:13	はい。中国電力の盛田です。
0:00:16	本日のご説明内容は大きく 2 点です。
0:00:20	まず一つ目は、審査会合指摘事項に対する回答パワーポイントにつきまして、前回のヒアリングで、ご指摘いただきましたコメントを反映した変更点について説明させていただきます。
0:00:35	二つ目が、主な説明事項のパワーポイント、こちらは耐震、津波の範囲につきまして、前回ヒアリングからのコメントを反映した変更点について説明いたします。
0:00:48	加えて、ご指摘いただいたことではないんですが、前回のヒアリングでちょっと頭出しさせていただきましたが、コンクリートのパートで、
0:00:58	前回は、あるコソ反応に特化したもの、説明のみしておったんですが、代表構造物の選定結果と、技術評価結果を追加しましたので、
0:01:10	その内容について説明を考えております。
0:01:15	はい。それでは、カンバラの方から指摘事項回答について、変更点を説明いたします。
0:01:24	はい、中国電力の神原です。
0:01:26	資料の方は審査会合における指摘事項に対する回答のパワーポイントをお願いします。
0:01:34	はい。
0:01:34	10 月 4 日の前回ヒアリングから変更した箇所を赤字、または青字で記載していますのでその変更点を主に説明いたします。まずは 2 ページをお願いします。
0:01:47	ホームページでは、最新知見の収集機関及び経年劣化関連の知見数について、今後の政治に反映する内容をご説明しております。
0:01:57	下表の左に現状の評価書の記載内容、
0:02:01	右に、今後の不正時に変更する内容を比較表として示しております。
0:02:07	赤字または青字箇所が補正時に変更する内容でありまして、青字は、前回のヒアリングからの変更点を示しております。
0:02:16	前回のヒアリングにて、最新知見の反映状況等も踏まえた記載にするようご指摘いただきましたので、こちらの通り、記載を適正化いたしております。
0:02:28	続いて 4 ページをお願いします。
0:02:32	こちらはアクセスホールカバーの保全内容に関する内容です。
0:02:37	前回のヒアリングにて、MVP 湾の点検範囲と、要求規格について明確にするようご指摘いただきましたので、下表の通り、

0:02:47	日比除去部を含めたシュラウドサポートの点検範囲及び要求規格等について明確に示しております。
0:02:57	続いて 16 ページをお願いします。
0:03:03	こちらは新たに追加する長期施設管理方針の実施時期について、実施時期の注記の※に関して、前回資料では、2019 年 2 月 10 日から 10 年間としておりましたが、
0:03:17	新規に策定する長期施設管理方針であることから、
0:03:21	策定後、運転開始後 40 年時点までと記載を見直しております。
0:03:27	こちらの内容については、18 ページと 20 ページについても同様の主変更をしております。
0:03:35	以上で、
0:03:36	指摘事項の回答資料についての説明を終了します。
0:03:43	はい。説明ありがとうございます。規制庁の方からコメント等ございましたらお願いします。
0:04:28	規制庁アマヤです。念のためなんですけども、策定後って、
0:04:33	書いてますが、JISは、この長期
0:04:38	長期とかですね、長期施設管理方針の策定って書いて策定後なんで、
0:04:43	長期施設か。
0:04:46	施設管理方針の策定を、
0:04:48	ということだと思うんですが、小暦日でっていうか或いは、
0:04:54	具体的な、こっからって言った場合にはこれは、いつ策定っていう策定っていうのは、どの段階を言うのでしょうか。
0:05:11	はい。中国電力の神原です。具体的には、PLMの評価書の最終補正をした後に、社内等、この長期施設管理方針を策定するということを立案いたします。
0:05:24	そのタイミングで、が江藤策定のタイミングになります。
0:05:28	以上です。
0:05:35	規制庁前です。
0:05:37	すいません。
0:05:39	念のためなんですけども、そちらでそれがいつ策定されたかっていうのは、
0:05:45	明確にわかる日付になる、日付っていうかタイミングが明確に客観的にわかるということで、
0:05:52	中国電力の神原です。はい日にち単位で明確にわかるようになります。策定日が、
0:05:58	以上です。
0:06:02	中国電力の盛田です。ちょっと今のご質問の趣旨確認させていただきます。明確にわかるようにというのは社内的にデジタルでこの人、

0:06:14	というのが、しお示しできるかということですかそれともホームページとか、対外的に、
0:06:21	公表をするとかそういう意味合いでのご質問でしょうか。規制庁穴井です。質問のぜひは、趣旨は、この式の元が明確になっているかということの確認であります。
0:06:35	中国電力の盛田です。はい。式は、明確に策定する際は明確にして策定をいたします。
0:06:46	はい。規制庁甘利です。了解しました。ありがとうございます。
0:06:54	規制庁スズキオオツカが1点確認させてください。今の施設管理方針に関してですね、実施時期に中長期という言葉が使われてますけども、
0:07:04	従来ですとこれが短期中長計中、
0:07:07	5年10年とかいろいろそういうそれなりの定義が書いてあったと思うんですけども、
0:07:12	これ40年までっていうのは
0:07:16	配管のところは中に40年までのっていう枕詞の
0:07:21	評価の考え方があったんで、まだその40年という意味が通じるんですけど、他のところをみんなこれ、
0:07:29	40年ってあるんですね次の。
0:07:32	否定サイクルとかみんな、
0:07:34	これを値、中長期の40年とか、全部この40年で一律にするっていう何か、
0:07:41	お考えがあればそれを教えてください。
0:07:53	中国電力のシゲトミです。今ご指摘いただいた通りですねもともと規定に基づいて中長期であれば、30年時点から十年間といったところが決まり事としてあるかと思っております。
0:08:04	今回に関しましては申請した時点では、30年前だったんですが、現時点ですでに30年を経過しているという経緯がございますので、40年までの間の長期施設管理方針という整理の方を優先しまして、このような記載にさせていただきました。以上です。
0:08:34	規制庁鈴木ですわかりました。
0:08:44	規制庁ヒダカです。その他何かございませんでしょうか。
0:08:52	高野さん何かコメント等ございますでしょうか。
0:09:09	すいませんコウノです。
0:09:11	そっか。
0:09:14	4ページ目のアクセスホールカバーのところの件で、表をつけていただきました。
0:09:21	で、

0:09:23	この中でシュラウドサポートの溶接継ぎ手 18 から 11 について、これの比点検頻度って 20 年から 30 年、
0:09:34	でしたっけ。
0:09:41	中国電力の吉尾、中国電力島根原子力発電所の吉岡です。こちらの点検周期はですね維持規格の方でですね、
0:09:52	供用開始から暦年で 20 年から 30 年以内とするとなっておりますので、
0:10:00	点検周期、規格に基づく点検周期を記載しております。
0:10:04	以上です。
0:10:07	ホイを借りました。
0:10:10	それで、そうか。そういうことですね。了解いたしました。はい。
0:10:15	ありがとうございます。
0:10:40	原子力規制庁の小嶋です。私も 4 ページなんですけれども明日アクセスホールカバーの保全内容についての、この表のうち一番、
0:10:49	植野ですね、シュラウドサポート日比除去部のところについてです。
0:10:54	中段に赤字でも書いてありますように確かに亀裂の解釈では次回、
0:11:00	の定期事業者検査時に火日比助教分の定検を実施するっていうようなことが決められているわけなんですけれども、あわせてその 5 においても適切な頻度で点検をするようにということが記載されています。
0:11:15	その後について何かすでに決まってるようなことがあれば
0:11:20	説明をお願いします。
0:11:24	中国電力島野原子力発電所の吉岡です。ご指摘の通りですね、修理した次の定期事業者検査以降もですね適切な頻度で、
0:11:35	点検を行うことが要求されておまして、具体的な時期についてはまだ社内で検討中でして具体的に、次の点検をいつっていうところは、まだ決まっておきませんので現時点では検討中でございます。以上です。
0:11:52	はい、承知いたしました。
0:11:55	検討が大体いつぐらいとかそういったようなものも、まだわからないんでしょうか。
0:12:06	中国電力の吉岡です。18 回土佐点検を行う 18 回定期事業者検査時の状態にもよるんですが、
0:12:16	そうですね具体的な時期については、まだお示しできるような形で決まっておきませんので、はい。申し訳ないですけど社内でまだ検討しているという段階でございます。以上です。
0:12:28	規制庁、小嶋ですわかりました。
0:12:31	そういったようなことで、長期ほ支出管理方針とかそういった考え方には、ルールとかそういったようなことはないでしょうか。
0:12:44	中国電力の吉岡です。
0:12:47	指摘事項回答パワーポイントの 5 ページに記載しておりますけど、
0:12:52	この中で長期施設管理方針の考え方の項目の衛藤一番下の

0:13:01	ポツになるんですけど、
0:13:04	亀裂解釈に基づく点検は、
0:13:09	開発に関する知見を蓄積する観点で実施するものでして、高経年化対策上の管理ではないという、整理をしております現状これらの点検については、長期施設管理方針という扱いにはしていません。
0:13:24	以上です。
0:13:26	規制庁コジマイセわかりました確かに亀裂の解釈でも、知見を蓄積するというふうに書いてありますので、そういった解釈であるということ、について理解いたしました。
0:13:38	私からは以上です。
0:13:53	規制庁日高です。ほかにコメント等ございませんでしょうか。
0:14:02	それでは、次の自主事象の説明をお願いします。
0:14:12	中国電力のシゲトミです。次の資料で島根原子力発電所 2 号炉、高経年化技術評価 30 年目の補正に係る主な説明事項の資料につきまして、
0:14:23	この主な説明事項の資料のうち、耐震安全性評価について、前回ヒアリングにおけるご指摘を踏まえた修正箇所を中心に、江戸式で示しておりますが、こちらの変更内容を説明いたします。
0:14:35	ちょっとページが飛びますので変更箇所の説明にあたっては資料の右上の通しページ番号を使いまして該当箇所をお示しいたします。
0:14:43	まず、53 ページ目の絵のページ番号の修正についてですがこちらは次回のヒアリングで説明予定の絶縁特性低下他の資料修正に伴うページ番号の変更を反映しております。
0:14:56	次に 50、55 ページをお願いいたします。
0:15:03	55 ページから 57 ページに記載しております基本方針についてですけども、前回のヒアリングにおける、ガイドに適合という記載が適切であるかというコメントを踏まえまして記載表現の見直しを行っております。
0:15:16	具体的な修正内容ですが、審査の審査ガイドの位置付けを踏まえまして、ガイド要求事項と読める記載についてすべて削除しております。
0:15:25	また、審査ガイド記載事項を満足することを確認すると、いうことを評価の基本方針として、記載表現を見直しております。
0:15:34	なおこちらについては記載表現の修正でございますので、本修正により評価内容ですとか、評価結果を変更するものではございません。
0:15:42	続きまして 60 ページ目をお願いします。
0:15:48	60 ページ目本スライドは、耐震安全性評価において考慮する必要のある経年劣化事象の抽出結果を表にして示しているページですが、ちょっと質問票のほうでご指摘いただいた内容を反映しまして、
0:16:00	所長、失礼しました、照射誘起型応力腐食割れの別に合わせて記載しておりました中性子照射による靱性低下について、注記を追加して分類を適正化しております。

0:16:12	また、表中の記号の凡例がございませんでしたので、今回あわせて追加しております。
0:16:19	次に、65 ページをお願いいたします。
0:16:24	本スライドでは、2 ページ前の 63 ページから、各劣化事象に対する耐震安全性評価手法の概要を示しておりましたが、前回ヒアリングにてコメントをいただいた、制御棒挿入性評価について今回追加しておりますので、その評価手法の概要を追記しております。
0:16:42	評価結果につきましては別途後段で説明いたします。
0:16:45	次のページをお願いします。
0:16:50	66 ページ目より、
0:16:51	配管の流れ加速型腐食を考慮した耐震安全性評価の保守として、耐震管理厚さについて記載しておりましたが、前回ヒアリングにていただいたコメントを踏まえ、
0:17:02	設定の経緯や管理方法等の記載を拡充しております。
0:17:06	追加した内容についてご説明いたします。
0:17:09	一つ目の矢羽根ですが、島根 2 号炉において、耐震管理厚さを設定することになった経緯を追記しております。
0:17:17	流れ加速型腐食を考慮した耐震安全性評価を実施するにあたり、耐圧上の必要厚さ、または 60 年時点での想定厚さをも用いて耐震評価を実施したところ、
0:17:28	評価が成立しないモデルがあったという経緯から、
0:17:32	配管減肉管理上保守的な管理値として、40 年目の想定厚さを含めて、耐震管理厚さとして定め、社内QMSに基づき、耐震管理厚さを下回らないよう管理することを定めております。
0:17:45	また、二つ目の矢羽根に追記している事項ですが、
0:17:48	耐震管理厚さは減肉管理に用いる保守的な厚さとして、すべての系統に対して一律の考え方で設定したものであり、
0:17:57	耐震安全性評価が成立する最小の厚さは、この管理値よりも薄肉側にあると考えております。
0:18:03	そのため、今後の実測データに応じられた余寿命を踏まえ、
0:18:07	必要に応じ、耐震補強等の措置、または耐震管理厚さの見直しを含めた余寿命管理を実施することとしております。
0:18:16	次のページの記載事項には変更等ございませんので、68 ページ目をお願いします。
0:18:23	68 ページ目、ホームページには、耐震管理厚さを含めた管理方法について記載しておりますが、
0:18:29	前回ヒアリングでのコメントを踏まえ、よりも余寿命管理の方法について一部記載の拡充を実施するとともに、
0:18:37	配管板厚測定結果に応じた対策の実施イメージ図を追加しております。

0:18:43	本文のスズキ箇所ですが、配管の余寿命管理について、実測データに基づき、余寿命を定め、その結果を踏まえ適切な時期までに、配管等の配管取替等の措置を、
0:18:54	計画、実施することを手順に定めております。
0:18:58	また、耐震管理厚さを下回らないよう管理することも同様に定めていることから、
0:19:03	運転開始後 60 年時点までの耐震安全性評価に用いる配管板厚について、耐震管理厚さをを用いて評価を実施している旨を追記しております。
0:19:15	また、対策実施についてのイメージ図を追加しておりますが、
0:19:19	今後の実測データが、現在の 40 年目想定厚さのその想定に対して、どのような傾向であったかに応じてパターン分けして示しております。
0:19:28	中央及び右側の図に示すように、今後の実測データが想定通りまたは想定よりも減肉量が大きかったという場合には、
0:19:37	耐震管理厚さを下回らないように対策を策定実施することとしており、想定より減肉量が大きかった場合であっても、対策の検討実施に十分な期間が確保できる手順となっております。
0:19:50	一方、左側の図に示すように、想定よりも減肉量が小さく、
0:19:55	耐震管理厚さをを用いて、
0:19:58	健全性評価済みの板厚で 60 年時点に想定される板厚移行まで継続で実施できるという結果がえられた場合には、減肉量を蛍光管しながら使用を継続できることとしております。
0:20:10	次のページをお願いします。
0:20:16	先ほど、66 ページの方で、耐震管理厚さの見直しを含めた、余寿命管理を実施すると追記した旨を説明しました。ホームページには、耐震管理厚さの見直しに係る考え方を追記しております。
0:20:30	当然実の通り、耐震管理厚さは、耐震安全性評価が成立する最小厚さではないことから、
0:20:37	今後の配管板厚測定の結果を踏まえ、追加の耐震補強を含めた詳細な耐震評価を実施することで、耐震管理厚さの値を個別に見直すことができることとしております。
0:20:49	イメージ図をスライドの下部の方に示しておりますが、40 年想定厚さを含めた耐震管理厚さ到達前に、追加耐震補強等を含めて詳細に耐震評価を実施。
0:20:59	より厳しい条件で耐震評価が成立するということが確認できた場合には、個別に耐震管理厚さを変更し、変更後の耐震管理発生に基づく余寿命管理を実施することとしております。
0:21:12	次のページをお願いします。

0:21:16	70 ページ目ですが、ホームページは、余寿命管理の具体的手法の例として、当社のQMS文書に定める次回検査時期の設定について抜粋して示しております。
0:21:26	表中に記載しております通り、算出した余寿命に応じ、余寿命が 5 年となるまでの残期間等の複数の条件から、いずれか早い時期をもとに、次回検査を実施する時期を定めております。
0:21:40	次のページをお願いします。
0:21:44	ホームページは、先ほどのページと同様、余寿命管理の具体的手法の例として算出した余寿命に応じ、講ずべき措置として当社手順書に定める内容を示しております。
0:21:57	開発上の必要厚さ、PSR及び
0:22:00	と耐震管理厚さの両観点から算出された余寿命に対して講ずべき措置を定めており、
0:22:06	余寿命が 5 年を下回った時点で、配管の取りかえ等の措置を計画措置の計画を策定することとしております。
0:22:14	また、15 ヶ月未満となった時点の定期事業者検査において、対策を実施することをあわせて定めております。
0:22:21	耐震管理ヤスタに係る記載の拡充についての説明は以上となります。
0:22:26	次の修正箇所の説明についてページが飛びます 83 ページをお願いいたします。
0:22:38	ホームページでは、各評価項目に対する代表機器の選定理由等を、と 81 ページ目から表で示しているところですが、83 ページの末尾に、前回ヒアリングでコメントいただいた制御棒挿入性評価について追加して示しております。
0:22:54	97 ページをお願いします。
0:23:01	97 ページには、先ほどご説明しました制御棒挿入性評価について、評価結果を示しております。
0:23:08	記載しております通り、制御棒挿入性に影響を与える経年劣化事象がなく、基準地震動Ssにおける燃料集合体の相対変位が機能確認済み相対変位内であることを確認した旨を記載しております。
0:23:22	また、燃料集合体の相対変位、機能確認済み相対変位、それぞれについて、比較の表を合わせて示しております。
0:23:31	99 ページ目をお願いします。
0:23:35	ホームページから 105 ページまでに、103 ページ目までについては、先ほど、2 ポツの基本方針でご説明しました内容と同様ですが、前回ヒアリングにおけるガイドに適合という記載が適切かとのコメントを踏まえた記載表現の見直しを反映しております。
0:23:52	104 ページ目をお願いします。
0:23:56	104 ページ目 5 ポツのまとめとしまして、長期施設管理方針として策定する事項を示しているスライドですが、

0:24:03	先ほど審査会合における指摘事項に対する回答のパワーポイント資料で説明しました通り、新たに定める長期施設管理方針について、実施時期の記載表現を見直しております。
0:24:15	耐震安全性評価に係る前回ヒアリングからの変更点の説明は以上となります。
0:24:25	規制庁日高です。
0:24:30	そうですね、まず最初のコメント、私からのコメントとしてですね。
0:24:37	ちょっと、
0:24:40	資料が、
0:24:41	ないなっていうのが、
0:24:44	ありました。
0:24:45	まず、1、
0:24:47	説明は省いて、
0:24:49	多分、
0:24:50	説明されると思うんですけども、ちょっと
0:24:54	中に、前回の会合の指摘事項、
0:24:59	のとダブってるような資料が、
0:25:02	見受けられまして、例えば、
0:25:05	77 ページですか、これは、
0:25:09	W、
0:25:10	出る。
0:25:11	と思ってるんですけども、
0:25:17	いかがでしょう。
0:25:23	それ、藤そうですね。衛藤。
0:25:31	あとはそうですね。衛藤。
0:25:40	少々お待ちください。72 ページのところで、ちょっと番号が、評価手法の番号というところはちょっとずれてて、
0:25:50	ずれてるのか。
0:25:52	ヒトミ。
0:25:53	られますね。
0:25:57	それ 65 ページからなんですけども、
0:26:04	阿藤層ですね、衛藤。
0:26:07	所々にその欲しい。
0:26:10	市星に星さんっていうのが入ってまして、これって、その位置付けがちょっと、
0:26:19	よくわからなくて 3、参考という位置付けですか。

0:26:33	中国電力の神原です。当通し番号のずれについては失礼しました適正化いたします。もう一つのホシノ位置付け具体的には、66 ページの星 1 で耐震開発について、
0:26:48	記載して欲しい。で、ご説明いたしますと位置付けとしては、評価対象と評価手法という分散コウノアノ項目の中で、耐震管理やすさを、
0:27:00	適用して管理していきますよっていうことを説明していて具体的に耐震管理厚さってどういうものなのっていう、補足をしている、補足をするための位置付け。
0:27:10	保守をつけました。
0:27:13	以上です。
0:27:16	途中途中で保守が入ってくんでその津波でつなぎ目がちょっとよく、
0:27:21	わからなくなってるのかなと。
0:27:23	いうところが、私からの一つコメントです。
0:27:29	中国電力盛田です。途中途中で保守という、
0:27:34	言葉が入ると紛らわしいので、消すか、ちょっと記載は検討したいと思います。はい。よろしくお願いします。
0:27:44	衛藤。
0:27:45	あとそうですね、代表せえとな 81 ページの代表設備の選定。
0:27:51	ですか、評価対象と評価手法の代表を選定するところあるんですけども、
0:27:57	耐震重要度と耐震条件っていうのは、ここで必要。
0:28:01	記載が必要かどうかというのもちょっと検討していただく。
0:28:04	だなあとっております。後ろの方の、耐震安全性評価の中で耐震重要度とかが入ってきてますんで、
0:28:14	少し
0:28:16	うん。
0:28:17	削ったらもう少し選定理由とかはないか。
0:28:20	もっと詰められるのかなっていうのが、
0:28:23	と。
0:28:24	一つのコメントでございます。
0:28:30	中国電力森田です。今耐震のパートのちょっとボリュームが大きくなっている理由として、
0:28:38	介護資料には考えてませんが、劣化事象ごとの説明用のパワーポイントがございまして、耐震と耐津波につきましては、これまで、
0:28:52	ご説明してなかったものですので、その劣化事象ごとの説明のパワーポイントをそのまま入れ込んでしまって営業が多いという状態になります。
0:29:03	先ほどの指摘事項のコメント回答とダブったページ等は、当然説明は省略で良いかなと。

0:29:14	考えておりますが資料からも、ダブったページは削除して、なるべく物量を減らしたほうがよろしいでしょうか。
0:29:24	の方が良いと思います。
0:29:28	中国電力盛田です。はい、承知いたしましたではなるべくコンパクトになるように、資料及びまた、我々の説明についても、
0:29:39	はい、検討したいと思います。
0:29:42	はい。規制庁日高です。了解いたしました。
0:29:46	それで衛藤そうですね。
0:29:50	ちょっと
0:29:52	この資料の中で
0:29:55	新たに付け加えていただいた星市の耐震管理厚さですか。衛藤。
0:30:03	66 ページから、
0:30:06	71 ページまであるんですけども、
0:30:09	ちょっと
0:30:11	細かく話は、
0:30:14	これから聞いていくのかなとは思ってるんですけども。
0:30:18	基本的に、
0:30:21	70 ページ 71 ページとかいう話は、
0:30:25	現場で確認するような話なのかなっていうふうに思って。
0:30:30	るんで、
0:30:31	けども、
0:30:32	これがその会合で必要かどうかという話。
0:30:39	んなんですけど、いかがでしょう。
0:30:41	中国電力の神原です。藤甲斐。まず会合で、まず必須かという、必須ではないと思います。ただ今回つけたのが前回のヒアリングで、具体的にどういうふうに管理しているのかという
0:30:54	ご指摘いただいたので、先ほど盛田が言ったように、この今回のこの主な説明の耐震と津波は、事象ごとのパワーポイントではなくてここにも全部詰め込まないといけないっていうちょっと私が頭がありましたので、ちょっと詰め込んでしまったっていうところが
0:31:08	衛藤経緯となりますただ、今おっしゃったようにあの会合にこんな細かいところいるのかっていうと、そうではないかなと。で、ヒアリングの対応として補足説明資料にこれをつけて、すぐおけば前回のヒアリングのコメントの時に、
0:31:20	具体的にどういう管理なんですかっていうご質問に対してはお答えできるかなと思いますので、会合資料から削除をしたいと思います。以上です。

0:31:30	ここの資料見て、見さしていただいたんですけど補足説明資料の中に すでにもう全部入れ込んでるんで、それもすごく考えたらこの
0:31:39	会話のバックの中で、必要かっていうところはちょっと
0:31:43	思ったんで今コメントさせていただきました。
0:31:47	それちょっと
0:31:50	ここの、
0:31:51	耐震管理厚さのところに、私からちょっと一つ質問させていただきます と、
0:31:58	この
0:31:59	6分の1、1ページ、66ページなんですけど、
0:32:05	耐震管理厚さの家設定の経緯っていうところで、
0:32:09	ガイドの記載を踏まえてですね、耐圧上の必要な厚さ、または60年時 点での想定厚さを用いた耐震評価を実施したところっていうふうな、
0:32:21	記載があるんですけども、これ、耐圧上の必要厚さっていうのはこれは TSRのことを言ってらっしゃるんですか。
0:32:30	中国電力のカンバラず、はいその通りですTSRのことを、
0:32:34	意味しております。以上です。衛藤。
0:32:36	68ページの、その記載ぶり等異なっ。
0:32:43	出ますよね。
0:32:45	用語の使い方として、
0:32:53	中国電力の岡村です。はい。68ページのところ必要最小厚さ、
0:32:58	としているところと違うというご指摘だと思います。次、違うと思いますた だ、66ページでなぜ耐圧状の衛藤必要厚さという定義にしたかという と、耐震上でも、耐震、耐震評価上必要な
0:33:14	厚さと、田井阿久津城野っていうそこちょっと違いを明確にしたいなと思 ってちょっと言葉を使い分けたんですけども、一つの資料で、使い分 けるのはよくないと今思いますし必要最小厚さTSRって言ったらもう、
0:33:27	耐圧上の必要な厚さってのは自明かなと思いますので、用語を必要最 小厚さの方に統一したいと思いました。以上です。
0:33:42	はい、ありがとうございます。
0:33:55	規制庁鈴木です。
0:33:58	私からですねちょっと
0:34:00	中身の確認なんですけど、例えば今68ページのところにですね、
0:34:05	なお書きのところ、
0:34:08	一部配管では、耐震管理安さがTSRを下回るが、
0:34:13	これこれって書いてありますよね。
0:34:15	そうすつとですね、TSRを下回るような患者さんがあること自体が、エッ て思ったんですね。で、元に戻ってみるとその60の、

0:34:25	なんだ、6 ページですかね、ここにその定義が書いてありますよね。
0:34:29	耐震管理アサノ。
0:34:31	ここに 40 年目の想定厚さと公称板厚の 80%の美馬宇都。
0:34:37	ここにもう一つのって、
0:34:39	必要最初朝以上というレンジIIで書かなきゃいけないところが、
0:34:44	方を抜けてたんじゃないかと。
0:34:46	ちょっとそこ論理的に少しそこで困った誤解を招くっていうかわかんなくなっちゃうんで。
0:34:52	そこをもう少しちゃんと論理的に繋がるような定義なり、記載にさせていただきたいなというふうに思います。中国電力の盛田です。まず 68 ページのなお書きのところですが、
0:35:05	はい。ご指摘の通りでございまして、耐震管理厚さというのは 40 年目の想定厚さと、
0:35:13	足。
0:35:19	40 年目の想定厚さと公称板厚 8、交渉日立の 80%の小さい方。
0:35:26	ということで、
0:35:28	それが
0:35:30	開発上の必要厚さ、
0:35:32	つまりTSRを下回る場合もありますけど、ここは当然、大きい方で管理いたしますので、そのようなことがわかるような、
0:35:44	記載にしたいと思います。
0:35:51	規制庁鈴木ですわかりました。ちょっと一つですね、ちょっと細かい計画を、
0:35:56	前からちょっと、
0:35:58	ヒアリングでもコメントさせていただいたかもしれません。
0:36:01	60、60 ページ、
0:36:04	ここに評価対象の、
0:36:06	一覧表っていうか、あるんですよね。
0:36:08	市末構造物とあとその対象とする劣化事象のマトリックスですね。こん中に、
0:36:15	まさに照射誘起よう腐食割れのところの炉内構造物のところにもともとあった、※4 のペケ印に※5 の横バーが追加されたんですね。
0:36:26	これ※5 と何かっていうと、下の方に主機あるように中性子照射による靱性低下の扱いを横バーとしてるんですけど、私の理解、そういうところがですねこの横ババの定義を右下。
0:36:39	凡例のところを見ると、これは横場は、
0:36:42	発生しておらず或いは発生の可能性が低いって言いますが、中性子照射の靱性低下自体は発生するけども、

0:36:50	それが耐震上リスクになるような、
0:36:54	想定結果がないから、
0:36:56	靱性低下があっても耐震上の評価対象としてならないっていうんで、確かあの評価書、別冊の方の冒頭の
0:37:03	で、
0:37:04	うん。
0:37:05	整理表の中で黒四角かなんかでなっていたかと思うんですね。で、
0:37:10	当然ある途中のステップで■になったら最終的に耐震から消えるんで、
0:37:16	その場合の横ばっていう表記なんですけど、この横バーが右下の凡例と定義と合わないんで、僕はちょっとその、
0:37:25	論理的に繋がらなくなりますんで、ちょっと工夫していただきたいなと思います。
0:37:40	中国電力島野原子力発電所の吉岡です。ご指摘の通りですね■、まずこの耐震評価の考え方のフローというところがですね、パワーポイント資料の 59 ページに記載しております。
0:37:53	この中出スズキ様がおっしゃられた■の扱ってというのは、扱いの方も記載しておりますけど、こちらのフローで見てもですね、
0:38:03	その黒四角である靱性低下を、バーとして表現するっていうことは適切じゃないというのは承知いたしました内容的にも、人生照射を受けてますので靱性低下が発生しないというわけではないですので、
0:38:19	こちら、ちょっと表現は社内で検討して、
0:38:23	その旨がわかるように、資料の方を修正。
0:38:26	入れさせていただきます。以上です。
0:38:29	規制庁スズキダテわかりました。
0:38:40	規制庁日高です。衛藤先ほどのちょっと、
0:38:43	タイヤⅡの管理厚さのところに戻っていただきたいんですけども、
0:38:49	69 ページ、ちょっと綿Cがちょっと
0:38:54	誤解してルーのかもしれませんが、ちょっと、
0:39:00	今後の板厚測定結果を踏まえて、追加の耐震補強等を含めた詳細な耐震評価を実施し、
0:39:08	耐震管理厚さを見直すことができるとしている。
0:39:12	というところで、個別に見直すっていう話がなされたんですけども、
0:39:20	これ、個別ごとに、
0:39:24	想定。
0:39:26	その厚さを変えていくという理解なんでしょうか。
0:39:32	中国電力の盛田です。まず、現在の耐震管理厚さというものは、
0:39:40	40 年目と呼称 80%ということで、一律、定めておりますが、減肉が進んでる。はい。

0:39:49	減肉が、
0:39:52	大きくす、
0:39:56	失礼しました。
0:40:00	ルール、60年、もたない。
0:40:04	配管の肉厚測定結果から、60年もたないとなったものについては個別に評価して、その配管のみ管理値を見直していくという、
0:40:14	ことを考えております。以上です。
0:40:19	その管理値っていうのは、この
0:40:22	40年目の沿って厚さに見直していくという理解ですか。
0:40:32	ええ。
0:40:34	40年目の想定厚さというのは現在、設定している値ですが、何年目というかそれよりも薄いあたりに、
0:40:43	耐震評価をした上で、見直していくということになります。
0:40:48	例えばそれが50年目なのか、55年目なのかということは、
0:40:55	あろうかと思えますけども、何年目っていうわけじゃなくて、今決めてる管理値より薄い管理値に見直すこともできるということにしております。
0:41:07	以上です。
0:41:24	すいません。
0:41:40	これすいません、長期保守管理方針との関係ってどうなってく
0:41:47	しょ。
0:42:18	中国電力の神原ですと。
0:42:20	この長期施設管理方針のアノとの関係というのが今一応モリタ言ったようにこれ、肉厚測定、随時していきますので手順書に従って、
0:42:32	その手順書に従って肉厚測定して、その
0:42:35	それぞれ推測する、して板厚どうなるかという
0:42:39	決めるものなんですけれども、それをどんどんデータが蓄積するとその傾きが皆をされていきます。そういったところ、その見直された傾きによって、
0:42:49	また、耐震、先ほどの40名想定厚さが変わるのであれば、ちゃんと変わった値で、耐震評価をして、ちゃんと耐震性、問題ないということを確認していきますと、
0:43:00	そういった
0:43:02	手順になっていますので、ちゃんとその手順書通りに、今私が述べたような管理をしていきますというところを長期施設管理方針2として定めた。
0:43:12	位置付けとなります。以上です。
0:43:15	あと、実測値に基づいて、その40年目の想定厚さが変わっていくという位置付けで、

0:43:26	その 50 年目とかそういった新しい
0:43:29	その言葉が出るっていう話ではない。
0:43:38	ちょっと、
0:43:39	ちょっとすいません先ほど、
0:43:47	40 年目の想定厚さが変動していくという意味合いですか
0:43:54	ここで、
0:43:55	今決めているその 40 年目想定厚さが、上に行くことは、衛藤モリないのかなと思いますけれども、もっと下に下がるでもちゃんと耐震安全性が満足するのであれば、
0:44:07	それを見直すことになります。
0:44:10	見直すこともあります。
0:44:13	了解しました会社はそういう、そういうことですよ。だから、
0:44:17	40 年目の想定厚さで、管理はいたしますと、だけどその実測データによってその 40 年目の厚さっていうのがついては変わっていきますよ。
0:44:27	という位置付けで、
0:44:29	中国電力の神戸です。そのご認識の通りです。以上です。
0:44:33	すいませんちょっとこの文章からちょっと。
0:44:36	読み取れなかったでもはな。はい。
0:45:08	中国電力の盛田です。今神原が説明した内容では、40 年目の今後の減肉のその度合いによってスピードによって、40 年目の
0:45:21	想定厚さというのが変動するので、それに合わせて耐震管理厚さが変動するというような説明をしたんですけども、ちょっと少しニュアンスが違いまして、
0:45:33	今、耐震管イワサワアノ。
0:45:37	今の時点でこの 40 年目の想定厚さ、
0:45:41	または、交渉 80%の近い方ということで、
0:45:45	決めています。当然、40 年の想定厚さというのは、実際 40 年になったら、今の想定よりも変動するかもしれないんですけど、ここで我々が管理値を見直すと言っているものは、
0:45:59	その 40 年の変動とか、
0:46:01	ではなくてですね。
0:46:03	実際その管理値を、
0:46:06	割りそうになったものについて、耐震評価をして、例えば今、耐震管理ヤスタが、八ミリですっていうものでそれが評価を、
0:46:18	は 8mm位 8mmですと、それがどんどん 8 に近づいてきました。で、耐震評価をし、して見してみると、4mmまでもつ配管でした。
0:46:30	見直しというのを今実際してないので、ちょっと

0:46:35	何ですかね想像というか、概念的に話す面もあるんですけど、例えば4mmまで持つんで、カミヤ沢じゃ五味になり、6mm28mmから、例えば6mmに下げますとかですね。
0:46:48	そういったことを我々今この資料で説明をしております。
0:46:52	以上です。
0:46:57	規制庁都築ですがちょっと、
0:46:59	今おっしゃったんでわかんなくなりましたが、
0:47:02	さっき日高が申したのは私理解してたんですけど、今の盛田さんの話は再評価したら前よりも楽になる可能性があるかと、もう少し薄い立つでもっていう、
0:47:12	再評価のようなニュアンスのお話だけど、再評価する
0:47:18	病院っていうのは、何が変わるとそういう再評価。
0:47:22	の低落になるんでしょうか。
0:47:29	評価モデルの板厚でございます。
0:47:34	その板厚を、例えばさっき言った例でいけば、6ミリで、
0:47:42	例えばよ、ミナミですけど例えば読みのモデルで、評価をしてみて、
0:47:49	教授以下であれば、その
0:47:53	読みで持つと、
0:47:56	モデルの板厚を変化して、
0:47:59	再度評価をする。
0:48:01	ということでございます。
0:48:03	規制庁鈴木ですっていうことを最初にやった時が、保守的過ぎだけでもう少しちゃんと吟味したら、もうちょっといけそうだというそういうニュアンスのことでしょうか。
0:48:13	中国電力の盛田です。その通りです。最初はもう一律に、保守的な値として持たないラインもあるので、一律に設定したというものでございますので、保守的と言えれば保守的でございます。
0:48:32	いろんな理屈があると思うんでただちょっとなかなか今、
0:48:39	見直しのその要因っていうのはこの文章だけだとそこまでちょっと読めなくて普通だとよく補強したらもっと楽になるとかっていう
0:48:47	ご存知の通り現場はあんまり、
0:48:50	管理基準がいっぱいあるのを嫌がるんですよね普通はね。
0:48:54	tsrが一番理想で、TSR賃金管理が、PWRさんはどっちかとそれをザイゼン性にいろんなことを考えるんですけども、今回のプラントでは
0:49:05	諸般の事情でそういう少し使い分けをしなきゃいけないというのは、
0:49:08	理解しておりますけど、ちょっと今やりとりさせていただいたようなことがこの69ページのところで、
0:49:15	誰が読んでわかるのかなあというのは、多少その

0:49:19	ありますんで、何かもしもう少し、
0:49:22	チューニングできるような要因があれば、記載を見直して、
0:49:26	ご検討いただければなと思います。
0:49:39	中国電力の神原です。はい 69 ページのちょっともう少しわかりやすくというところで今、江藤具体、具体的に、先ほど盛田が言ったように、こういう場合でどうなったら、こういうふうにしますよっていう具体例を挙げるともう少しこう、
0:49:53	伝え、イメージが伝わりやすいのかなというふうに思いましたので、ちょっとそういうふうな、資料にして、に見直したいと思います。以上です。
0:50:02	規制庁鈴木です。当初こちら考えたの減肉想定インリーク量が違ったんで、もう少し再評価っていうことかなと思ったら、
0:50:11	減肉量が変わったからというよりはむしろ再評価の 3、
0:50:15	クライテリアか何かそれが保守性の
0:50:18	低減とかそういうに、
0:50:20	意味のことをおっしゃったんでそういう要因もお考えだしたらこの、ちょっとそこまではこれから、この文章から類推できなかったなということを上申しました。
0:50:47	中国電力の加藤ですいませんちょっと本社側の人間なんでちょっと私の理解が間違ったら申し訳ありませんが、まず今回、PAM30 年をやるにあたって、このAと 60、
0:50:59	6 ページ目に書かせていただいた通り、60 年目想定厚さで評価して駄目なものがあってTSRでも駄目なものがあつたので、
0:51:08	あつたのでえっと、40 今現時点で見たときに 40 年目を一旦その評価の対象厚さとして決めてやって、それと 8 交渉マツノ 80%、
0:51:19	それをくらべてやってえっと、
0:51:22	ミニマムのものを耐震管理厚さというものとして、一旦設定してやって、それで管理していきましたらまず、今回考えてることですので、今度はその耐震化に安里決めたもの。
0:51:34	が、今後肉厚測定って定期的にやっていきますので、そのデータを踏まえると
0:51:40	勾配が変わってくるんですね
0:51:43	減肉速度が、より精緻な値に近づいてきますので、今度はその精緻な対応を見てた時に、
0:51:52	予想以上よりも
0:51:55	もつような状態になってるんであれば、例えばその、
0:51:58	板厚のその減肉スピードもそうですし、何かしらの工事耐震補強をやったとして、条件が変わったものであれば、今後そのアスターをまた見直して、適切に管理していきまするというような、なので 40msを浅尾ずっと管理するという意味ではなくて、

0:52:14	今回一旦耐震厚さとして 40 年目の厚さというものを持ち出してきて、それと公社さんを 80%、
0:52:21	というものをクラベて一旦決めましたっていうのが、大まかな理解かなと思っております。
0:52:26	以上です。
0:52:35	規制庁スズキ今おっしゃったのは理解しました。はい。
0:52:58	規制庁平賀です。ほかにコメント等ございますでしょうか。
0:53:11	単純な誤記指摘ですが 97 ページ。
0:53:16	制御棒挿入性のところの、
0:53:18	4 ポツのタイトルの次に一で、浸水防護施設っていう、
0:53:25	全然関係ないことが、
0:53:27	サブタイトルが書いてありますね。
0:53:29	97 ページ。
0:53:32	はい。中国電力訂正お願いしますモリタです。大変失礼しました。訂正いたします。
0:53:40	高野です。同じようなことで 68 ページの、
0:53:44	図ですが、真ん中の図の②って書いてあるところの、想定II通りで、何か頭通り通りと二つ重なってるように見えます。
0:54:03	中国電力の河村です。はい。間野監事とひらがながダブっちゃってるので、失礼しました。適正化いたします。以上です。
0:54:29	規制庁日高です。ほかにコメント等ございませんでしょうか。
0:54:34	それでは次の、
0:54:36	それでは次の事象の説明をお願いします。
0:54:41	はい、中国電力の石田です。
0:54:44	それでは 105 ページから耐津波安全性評価の変更点をご説明いたします。
0:54:49	107 ページをお願いいたします。
0:54:54	はい。こちらは耐震安全性評価でご説明した通り、ガイドの要求事項というワードについて記載の適正化、同じように実施しているものでございます。
0:55:03	116 ページをお願いいたします。
0:55:15	はい、取水槽水位計の計測装置の基礎ボルトの腐食について前回のコメントを踏まえ、再検討を実施しまして、
0:55:23	基礎ボルトの色について耐津波安全上考慮する必要がある経年劣化事象として、見直しを実施しております。
0:55:31	117 ページをお願いいたします。
0:55:37	経年劣化事象を考慮した耐津波安全性評価についてですが、基礎ボルトの腐食を耐震安全上考慮する必要がある経年劣化事象として抽出したことから、

0:55:48	本事象に対する耐津波安全性評価を実施しております。
0:55:52	評価結果につきましては、表に示す通り、津波時の活用力が、許容応力以下であることを確認しており、耐津波安全上、耐津波安全性評価上問題ないことを確認した、しております。
0:56:07	118 ページをお願いいたします。
0:56:12	118 ページ 119 ページでは、審査ガイド等記載事項に対する確認結果を記載しておりますが、耐津波安全上考慮する必要のある経年劣化事象を改めて抽出したことから、
0:56:25	経年劣化事象の充実、耐津波安全上考慮する必要のある経年劣化事象の抽出、
0:56:31	Aタイプの安全性評価を実施した上で、現状の保全策は妥当であると評価した旨、記載の方を修正しております。
0:56:39	%泉安全性評価の説明は以上となります。
0:56:45	規制庁平賀です。コメント等ございますでしょうか。
0:56:56	衛藤、衛藤。
0:56:59	規制庁平賀です私の方からちょっと1点、確認させてください。
0:57:04	今回評価の中に、基礎ボルトの腐食具をつけ、衛藤。
0:57:12	追求していただいたんですけどここ、
0:57:15	基礎ボルト等がSS400であるから、ここに入ってくるという認識でよろしいですか。
0:57:25	はい、ご認識の通りでございますSS400で、大気環境下での腐食を考慮し、するためここでは、評価しているということでございます。以上です。はい。衛藤。
0:57:39	設備名なんですけども、
0:57:42	その取水槽推計則装置っていうのは、これ正しい設備図書名としてエントリーした名前ですが、工認で、
0:58:00	はい中国電力石田です。
0:58:04	す。
0:58:05	主
0:58:08	工認のこの計器自体は、取水排水系として、
0:58:14	エントリ
0:58:15	説明させていただいております。それがちょっとPL評価書に入るときに、ちょっと計測制御装置の方にちょっと引っ張られ、
0:58:23	PLMでは、
0:58:26	と、そうですね支出今記載してる通り、
0:58:29	取水槽、
0:58:31	水系で、
0:58:35	取水槽水位計測装置という名前で、

0:58:39	記載しているものです。
0:58:41	突合してるものです。
0:58:44	以上です。
0:58:45	それへと、基本的に
0:58:52	設備の名称っていうのは、工事計画認可で登録されたものと同じでなければいけないんじゃないんでしょうか。
0:59:03	中国電力の加藤です。日高さん今おっしゃる通りだと思いますのでちょっと事実関係確認させていただいて、必要であればちょっと修正をさせていただこうかなと思います。
0:59:13	一応その他の設備もそういったものはないかという観点でちょっと確認だけはし、
0:59:24	中国電力の河村です。江藤と本来工事計画認可と同じ名称にすると、統一性があると思いますが、PLMの初回申請の時の段階でまだ工事計画認可がまだなかった状況です、
0:59:37	今、その時にあったのがシート3といった発電所の中の機器を管理しているような衛藤物があるんですけども、その名称性としてすべてPAMの教科書は作っています。
0:59:50	ですので、結論から申しますと、今のPLM評価書全体を見てっていうことに関しては、工事計画認可と用語は統一できていないです。
1:00:01	そこが衛藤。
1:00:04	なのでちょっとそれをやるとなると、
1:00:06	等、
1:00:08	事実事実として今そういう状況というのはお伝えします。以上です。
1:00:17	中国電力はどうですかセト私の認識が間違っておりましたができていないというのではなくて、あくまでうちが今か保線と保全として管理しているのが、シート1からシート4まであるんですけど、
1:00:29	そのシート3の中に、その具体的な機器の名称を定義しておりまして、それを、に基づいてのフィルム評価書を作成しておりますので、
1:00:37	機器区分等については設工認と基本合ってると思っておりますが、機器の詳細な名称については、工認ベースではなくてシート3 保全として管理している機器の名称に今、
1:00:48	合わせるというのが今のカンバラの回答になります。
1:01:19	当中国電力の岡村です。今の現状そうなんですけれども江藤と公認の名称と今なら直すことはできますので、ちょっと時間がかかってしまうんですけども、
1:01:30	評価書本体の方ですけども、江藤直すことができますので、具体的中身の内容が変わるようなものではありませんので、そこはちょっと直す方向で検討したいと、直すというのが、
1:01:41	工事工認と合わず名称に、持っていく方向で検討を進めたいと思います。以上です。

1:01:50	まずは事実確認をよろしく申し上げます。はい。
1:02:13	規制庁日高です。ほかにコメント等ございますでしょうか。
1:02:31	はい。それでは次の事象の説明をお願いします。
1:02:35	中国電力盛田です。それでは発電所の方から、コンクリートの説明、よろしく申し上げます。
1:02:46	中国電力島根原子力発電所の秋山です。続いて、コンクリートの強度低下及び遮へい能力結果の主な変更点について説明いたします。
1:02:55	資料は島根原子力発電所 2 号炉、高経年化技術評価 30 年目の補正に係る主な説明事項はポイントを用いて説明いたします。
1:03:05	この資料により、主な修繕箇所の方を説明いたします。まず、38 ページをお願いいたします。
1:03:13	38 ページの方で新規規制基準適合性審査により、評価対象設備として浸水防護施設に属する構造物及び常設重大事故等対処設備に属する構築物を追加し、健全性評価を反映しております。
1:03:29	コンクリート構造物のうち、供給塩化物の影響が大きい対象構造物については、1 号機取水槽北川オカベ、及び漂流防止装置基礎、括弧三宅護岸を追加しております。
1:03:42	これらの設備から、運転開始後経過年数 43 年の構造物のうち、エンプラスの
1:03:49	一次構造物等となる 1 号機取水槽北川オカベを代表構造物として選定しております。
1:03:57	続いて 39 ページをお願いいたします。
1:04:00	39 ページ、40 ページで、代表構造物とした 1 号機取水槽北川壁について中性化及び塩分浸透に関する評価結果を記載しております。
1:04:12	39 ページの表中にあります、運転開始 60 年時点の中性化深さの数値におきまして、実測した中性看破さ、
1:04:22	ウノ海田 1 を用いてルート意識により算出した数値を記載してはありますが、平均、中性化深さを用いた用いて算出した装置。
1:04:32	の方に修正をさせていただいております。
1:04:36	コンクリート及び鉄骨構造物関係の評価について主、主な修正箇所については以上となります。
1:04:42	以上です。
1:04:46	規制庁日高です。コメント等ございますでしょうか。
1:05:08	はい。衛藤。
1:05:11	この事象については特にコメント等ございません。
1:05:26	説明としては、
1:05:28	これで最後ですか。はい。中国電力盛田です。準備したものは以上でございます。
1:06:07	規制庁平賀です。

1:06:10	一応、説明が終わりましたので、中国電力の方からコメント等ございますでしょうか。
1:06:17	はい。中国電力盛田です。特にございません。
1:06:26	江藤。ウェブで参加されてる中国電力島根原子力発電所と中国電力本社の方からコメント等ございますでしょうか。
1:06:38	中国電力島野原子力発電所のヨシオカです特にコメントございません。
1:06:45	中国電力本社から参加しているイワモトです。本社からも特にごめんとありません。以上です。
1:06:52	はい。ありがとうございます。それでは、
1:06:57	島根原子力発電所 2 号炉の高経年化技術評価ヒアリングを終了いたします。ありがとうございました。
1:07:06	ありがとうございました。
1:07:07	ありがとうございました。